



写・心・感

つながる記憶



旧西三川小学校

(佐渡市)

海岸段丘の高台に立つ木造校舎を真っ赤な夕日が染めた。2010年3月末に約140年の歴史に幕を下ろした佐渡市真野地区の旧西三川小学校。子どもたちのにぎやかな声が響いていた校舎はいま、酒蔵などとして活用され始め、再び活気を取り戻しつつある。

西三川小は1873(明治6)年の創立。現存する校舎は木造2部2階建てで、1963(昭和38)年度に完成した。一帯は果樹栽培が盛んで、海と山に囲まれた自然豊かな地域。昭和20年代には200人以上が学んだ。景色の素晴らしさは広く知られ、いつしか西三川小は「日本で一番夕日がきれいな小学校」と評された。

しかし、少子化の波には逆らえず、閉校前の児童数は30人ほど。同じ旧真野町の真野小へ統合された。全国的にも少子化による小中学校の統廃合が増えている。旧校舎の使い道が決まらず、遊休施設のままのところが多い。

現在、佐渡市が保有・管理する旧校舎は18。一部は集会所や交流施設として使われているが、今後どう活用するのか、模索が続いている。こうした中、旧西三川小では2014年、同じ真野地区にある酒造会社の尾畑酒造が校舎を借り受けて、通年で醸造が可能な酒蔵を開業した。「学校蔵」と名付け、PRしている。国内外から希望者を募り、酒造りを学べる「学校蔵」を募集している。

また真野地区の電子部品製造会社セイデンテクノは、グラウンド跡地に西三川産の米粉やリンゴを加工する施設を建設し、昨夏にはカフェをオープン。農産物の生産から販売までを手掛ける6次産業

学びやににぎわい再び



2010年に閉校した西三川小学校の木造校舎を夕日が赤く照らす。「日本で一番夕日がきれいな小学校」と評された21日、佐渡市西三川(本社小型無人機から)

グラウンド跡地に昨夏オープンしたカフェ。窓の外には海が広がる

教室を改装して造られた大型冷蔵庫から日本酒を選び出す蔵人。廃校を利用した酒蔵は全国でも珍しい

米園から訪れた日本酒の販売業者らが仕込みを体験。室温約30度に保たれた麹(こうじ)室で、汗だくになつて蒸したコメをもんだ



(写真部・富山 翼)